



# 「妙心寺派社会事業協会 社会事業従事者研修大会」報告

平成27年7月21日～23日 於：臨濟宗大本山妙心寺・花園会館 川島由里子



例年通り暑い夏の盛り、二三日の研修に全国から67名が集。坐禅、朝課、作務、粥座(朝食)と続く一連の朝の行事に身も心も引き締めながら、自分の命・相手の命・そして頂く命に感謝し、素直に合掌することを学ぶ三日間であった。

は、例年の如く温かな時間であった。またその夜の懇親会では、食事や班ごとの出し物を通じて、場内の雰囲気がいっぺんに和やかにになり、参加者同士心を通わすことのできた時間であった。

二日目は寺山内の退蔵院を拝観後、降りしきる雨の中、嵯峨野路の散策。途中、化野の念仏寺を拝観し、嵯峨野路の一番奥に位置する愛宕寺まで歩く。

ご住職西村公栄師より愛宕寺の縁起についてお話を伺ったあと、境内に納められた1500体の羅漢石仏を拝観。一般市民が彫ったという石仏の群れは、どれもこれも愛しい人を憶って彫られたことが、胸に沁み込む羅漢さまであった。

その後、愛宕寺の広間をお借りして、夢の鳥保育園園長・出原大先生より、幼少期に自然と関わりながら暮らすことがどんなに大事なことであるか。たくさんさんの事例や参加者が実際に草や木に触れながら、五感を駆使して子どもが育つことの意味を

お話し下さった。人は自然の一員として自然と共存してきた長い歴史があり、だから自然の中で心身が落ち着くのは自然なことなのだと言う。忘れないでいたいと思う。

最終日は、京都造形大学学長の地震学者・尾池和夫先生の講演で研修大会を締めくくった。演題は「日本列島の自然」。

日本の国の地理的成り立ちから話され、地震は正しく知って正しくこわがろうという内容も面白かったが、昔韓国では、皇帝が間違った政を行うと大地震が起ると考えられていたそう。今の日本に当てはめてお聞きし、おかしかった。

尾池先生によると、大地震は確実にやって来る。その時期も特定されていると言う。正しく知り、正しく対処することが大事だと言われたが、それはすべてに通じることだと改めて感じることがあった。面白い学びを得られた研修会であった。

## ◆通巻ナンバー記載の誤り、お詫びします◆

機関紙『仏教保育』9月号の通巻ナンバーを(618号)と標記しましたが、誤りで、正しくは(617号)でした。ご迷惑をおかけしましたこと、謹んでお詫び申し上げます、誠に訂正させていただきます。



護摩供法要



開会式



第1講



第2講

# 「第3回智山豊山合同保育研修大会」報告

平成27年7月23日・24日 於：大本山成田山新勝寺・成田ビューホテル  
智山保育連合会事務局 村磯 頼裕

毎年夏の時期に真言宗豊山派保育連合会・智山保育連合会では、真言宗豊山派寺院・真言宗智山派寺院附属の幼稚園と保育園に從事する園長・設置者・教諭・保育士を対象に研修会を開催しております。

本年度は、7月23日(木)・24日(金)の両日に両派合同で大本山成田山新勝寺様を会場に、第3回智山豊山合同保育研修大会として開催いたしました。

当日は、豊山派寺院附属の幼稚園・保育園が12園約70名、智山派寺院附属の幼稚園・保育園が18園約80名、総勢約150名が集いました。

まず、開会式では、大本山成田山新勝寺御貫首・橋本照穂大僧正はじめ、小宮宗務総長様、豊山派坂井宗務総長様など多数のご来賓よりご挨拶を頂戴し、また、各加盟園に於いて幼児保育に長く従事された保育士・教諭の功績を讃え「永年勤続者表

彰」を行い、開会式を終了しました。

第1講では、名取芳彦師(真言宗豊山派密蔵院住職/総合研究院布教研究所 研究員)より、「仏道てくてく」というテーマにて写仏のご講義を頂戴しました。その後、成田ビューホテルに会場を移し、懇親会を開催し、一日目を終了しました。

二日目は早朝5時30分より、橋本照穂御貫首が御導師をお勤めする朝護摩供に参列し、新勝寺職員様の案内のもと境内を散策しました。

朝食の後、第2講を行い、藤本ともひこ氏(絵本作家/童話作家・あそびうた作家)より「えほん とぎどき あそびうた」

というテーマにて、ご講演を頂戴し、第3講は伊藤尚徳師(真言宗智山派極楽寺住職/智山教化センター所員)より「お写経体験」というテーマにて写経のご講義を頂戴しました。

すべての研修プログラムを終え、最後の閉会式では、参加者に修了証を授与し二日間にあたる研修は盛会の内に終了しました。

末筆ではありますが、限られた時間の中で講師をお勤め頂きました先生方と会場を快くお貸し頂き、ご協力を賜りました大本山成田山新勝寺の皆さまに感謝を申し上げ報告とさせていただきます。



すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、  
保育環境の未来を提案する。  
それが、私たちの仕事です。

株式会社 ジャクエツ

www.jakuetu.co.jp

# 日蓮宗保育連盟 「第61回日蓮宗保育研修宮城大会」を終えて

平成27年7月25日・26日 於：宮城県遠刈田温泉宮城蔵王ロイヤルホテル  
日蓮宗保育連盟理事長 荒居 養雄



日蓮宗保育連盟主催の平成27年度第61回保育研修宮城大会は『慈悲のこころ』『だきしめよう!! 未来を担う小さなのち』の研修テーマのもとに、7月25日、26日の二日間、宮城県遠刈田温泉宮城蔵王ロイヤルホテルを会場に開催されました。懸念されていた蔵王の火山活動は、幸いにも大会が近づくにつれ落ち着き、日本全国か

ら、連盟加盟の幼稚園、保育園、認定こども園、大学等より約160名余の設置者、園長、教諭、保育教諭、保育士、職員等が参加し無事実施されました。

大会一日目、開会式では、参加者による宗歌「立ち渡る」讃仏歌「蓮の花」の斉唱、白石市ひかり幼稚園年長組園児のことばがけやきよらかな歌声、法味言上と続きました。主催者濱田文護理事長挨拶後、日蓮宗事務総長・小林順光様をはじめ地元元ご来賓よりご祝辞を頂きました。

最後に地元ひかり幼稚園長・風間文静先生からは歓迎の辞とともに「自然とやさしさ、恐ろしさ、こわさを東日本大震災被災の東北の地、そして蔵王の地で再認識してほしい」と述べられました。

その後永年勤続者(管長表彰30年：2名、理事長表彰20年：1名、10年：7名)の表彰、記念写真撮影と続き開会式は閉じました。

続いて「こどもの命を守るために」の記念講演で、宮城県名取市立閉上保育所元所長・佐竹悦子先生から、被災当時の状況をパワーポイントにて説明を受けました。幼い子どもの命を預かる私たちは、常に職員間であ

らゆることを共有しながら、自分たちの命は自分たちで守ることが大切であることをご教示頂きました。

これと並行し別室では定例総会を開催し、予定の議案はすべて承認されました。今年役員改選にあたり、濱田文護理事長が勇退、顧問につかれ、荒居養雄新理事長をはじめ新役員が承認されました。

夕食の懇親会は、地元仙台市の「すずめとれんど」によるすずめ踊りやフルート演奏、オカリナ演奏など和やかな交流の場となりました。

大会二日目は、仙台市はなぶさ幼稚園長であり、雲山寺住職の菅野貫順先生により「信する力」の演題で晨朝法話。続いて「見えないいのちを見つめよう」の演題で、宮城県大河原町の幼児から高校生で構成される「つくしの会児童合唱団」による素晴らしい歌声と表現あふれるハーモニに酔いしれました。

閉会式では、静岡県双葉幼稚園・瀧口公子先生から参加者代表謝辞があり、続いて来年第62回京大会の開催地、京都市たちばな保育園・藤田尚哉先生からご挨拶をいただき本大会は無事閉会しました。

# 「第41回浄土宗保育協会全国研修会」 (併修 浄土宗保育協会中四国地区研修会) 報告

平成27年8月22日・23日 於：山口県周南市「ホテル ザ・グラマシー」  
報告者：浄土宗保育協会山口教区支部 桑原 弘樹



平成27年8月22日(土)より23日(日)までの二日間の日程にて、山口県周南市の「ホテル ザ・グラマシー」を会場に、全国各地より40施設、135名余りの参加者を迎えて、浄土宗保育協会主催「第41回浄土宗保育協会全国研修会」が『合掌の出来るよい子に』のテーマのもとに開催された。

開会式に先立ち、県内周防大島町の源空寺保育園の園児による歓迎和太鼓の披露があり『南無阿彌陀佛』の御名号の掛け軸の御前にて園児一人一人の生き生きとした演奏に、会場内は可愛い熱気に包まれました。

また、開会式におきまして、動行に引き続き理事長の白旗文雄先生の挨拶後、浄土宗社会国際局局长・宮林雄彦上人をはじめ、ご来賓の方々より祝辞を頂きました。その後、国家表彰・永年勤続者表彰と続き開会式を終えました。

研修①では、萩博物館特別学芸員で至誠館大学特任教授の一坂太郎先生による「吉田松陰とその家族」と題してのお話で、明治維新という大きな節目で「志」を貫き多くの人材を育てた吉田松陰先生の生き様から、多くのことを学ぶことができました。

研修②では、総本山知恩院布教師で県内山陽小野田市貞源寺第二保育園園長のか藤善雄先生による『浄土宗保育の目指すもの』と題してのお話で、子どもを敬い「ほとけの子」を育てるようにとのお話がありました。親にとっては自分の命より大切な我が子、そんな尊い命をご縁があつて預らせていただき

ていることの意味を改めて考える機会をいただきました。合掌できる良い子に育つために、私たちにできることを今一度研鑽していきたいと思えます。

一日目の研修はこれで終え、懇親会は同会場の隣の宴会場にてビュッフェ大会など行われ盛會のうちを終えました。

二日目は、朝のお勤めから始まり、研修③では、知恩院仏教音楽研究所主事で浄土宗芸術家協会副理事長の小川隆宏先生による『音って、なんでしょうか?』と題してのお話で、何気なく聞いていた音の奥深さを教えていただきました。実際にシンセサイザーを使って歌われて、音楽の楽しさを伝えてくださり、楽しいひと時となりました。

最後に、閉会式が行われ、お昼前には散会となりました。参加者の感想文の中に、浄土宗という環境のもと、日々子どもたちと接していることの尊さを改めて感じることができ、その貴重な環境を生かし、これから子どもたちと日々関わっていきたいという感想がありました。大変有意義な研修であったことを当研修会に関わったすべての方々に感謝申し上げます。

# 「第34回北海道仏教保育研修旭川大会」報告

平成27年7月31日・8月1日 於：真宗大谷派旭川別院  
小山 英明（みどり幼稚園）

北海道仏教保育協会は7月31日・8月1日の両日、真夏日が続く中、第34回北海道仏教保育研修旭川大会を開催しました。

今回の会場は、旭川駅から徒歩約5分の場所であり、木々に囲まれた広い境内に健立され国内で最北端に位置する真宗大谷派旭川別院で行われました。研修には道内各地から約120名の教諭・保育士が参加し、二日間、

法話や講演、実技を踏まえた研修を実施しました。

今大会のテーマは「つなげるいのち」～自らがやく太陽となる。このテーマに基づき、北海道仏教保育協会・野村定弘会長は、「立ち止まり振り返ってみましょう。子どもたちは幼児期の本来の姿で生き生きと充分に楽しみ園生活を過ごしているのでしょうか？人生への生きる喜びを子ども

もたちに与感させることができているでしょうか？生命尊重の保育とは生命の輝きを体現することであり、また私たち自身が輝く中にこそ、あるものと思われまふ。」とご挨拶されました。

一日目の法話では、真宗大谷派旭川別院前輪番・澤田秀丸先生をお迎えし、仏教の中でもとても大切な教え、「六識」そしてさらにその奥にある「八識」について

お話して頂きました。「人は皆自我の上に立ち、物事を見ていること。しかし、その自我から離れてみることが出来る意識も私たちは持っていること。」とても解りやすくお話しをしてくださいました。

続いての講演では、パネルシアターの創案者である古宇田亮順先生をお迎えし、アコーディオン奏者の方とエレクトーン奏者の方も交えて、温かみのある優しい歌声と共に様々なパネルシアターを紹介してくださいました。大人の私たちも釘づけになるほどたくさんの仕掛けとユーモア溢れた展開に魅了されました。

研修後にグランドホテルで行われた懇親会では旭川の名物である旭川ラーメンを堪能できるブースを設け、地方から来られた先生方に楽しんで頂ける催し物を準備させて頂きました。そして中盤には、新感覚紙芝居「よしと&ひうた」さんのステージと共に他園の先生方と交流を楽しみました。

一日目の法話では、(社)日本仏教保育協会常任理事・高輪真澄先生に三福依文についてお話しを頂きました。三福依文の三は三宝を表し、「三つの優れたもの」を意味しております。仏教の話になると難しくなってしまうですが、保育中子どもたちに伝える時間も「三つ」の約束を伝えることで理解しやすくなり、様々な世界で

「三」を意識して伝えている方も

多くいらっしゃる事を高輪先生の経験をおまえたお話を聞かせてくださいました。

続いては、拓殖大学北海道短期大学・土門裕之先生を講師にお迎えし、音楽とリズムを題材にリズムを通していかに自然に人と人とのコミュニケーションを図る方法や、様々な世界を見てきた土門先生が感じた日本人の素晴らしさについてをユーモア溢れた実技を踏まえてお話しを頂きました。

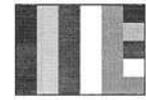
研修最後は紙芝居作家・紙芝居師のよしと&ひうたさんを講師にお迎えし新感覚紙芝居のステージを披露して頂きました。よしと&ひうたの手作りで心のこもった紙芝居と絶妙な演奏を奏でてくれるひうたさん。そして二人の相性の良さが講演の最中のお話でも感じる事ができました。紙芝居を通じ子どもたちに何を伝えるのか？一緒に楽しむには、まずは自らが楽しむことが大切であること、私たち保育者にとって根本にある大切な事を改めて振り返ることができました。

閉会式では、北海道仏教保育協会・畑光寿研究委員長にご挨拶を頂き、二日間にわたり行われた第34回北海道仏教保育研修旭川大会の幕を閉じました。両日、様々なジャンルのお話しを聞くことができ改めて保育と向き合うことができ、また充実した時間を過ごすことができました。





ZENBUTSU  
全仏保だより



## マイナンバー(共通番号)制度の対応について

### 1. 経緯

平成27年10月5日より各市町村から、住民票を持つすべての国民に向けて、世帯毎に「通知カード」(紙)が郵送され、12桁の個人番号が付与されます。平成28年1月以降の税と社会保障に係る手続に利用されることになり、各ご寺院が役職員等から当該個人番号を収集する必要が生じます。

### 2. マイナンバー制度の目的

マイナンバーは住民票を有するすべての人に番号を付して、行政が社会保障・税・災害対策の分野で効率的に情報を管理し、複数の機関に存在する個人の情報が同一人の情報であることを確認するために活用するとともに、個人が行政手続の際、利便性を向上させることを目的としています。

### 3. マイナンバー制度への対応

個人番号のプライバシー情報等としての重要性や漏洩リスク回避のため、各ご寺院に個人番号取扱対応や安全管理措置が要求されます。各個人(役職員等)から預かった個人番号を含む情報は、管理担当者を決め、管理場所や管理の道具(PC等)を特定するなどの管理を行ってください。

### 4. ご留意下さい!

- ①住民票に基づき各世帯に、家族分の「通知カード」が簡易書留にて郵送されてきます。住所地の確認、確実な受領と紛失・盗難等に留意し保管してください。
- ②今後、各ご寺院が行う税や社会保障に係る手続に当該個人番号が必要となるため、各個人(役職員等)から番号収集を行います。役職員等は寺院への提示(番号確認及び身分証明)に協力することになります。
- ③各ご寺院が個人番号を収集する対象者は、内部は役職員等(税務署に源泉徴収票を提出する者等)、外部は個人・報酬・謝金・顧問料等支払先(税務署に支払調書を提出する者)となります。

また、各ご寺院には、国税庁から同時期に13桁の法人番号が付与されます。こちらは管理や保護対象でなく、公表、利用される番号となります。

以上

監修：朝日税理士法人 公認会計士/税理士 木村 匡成



公益財団法人  
**全日本仏教会**  
WFB(世界仏教徒連盟)日本センター

〒105-0011  
東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2F  
電話 03-3437-9275 FAX 03-3437-3260  
<http://www.jbf.ne.jp/>



### 事務局日誌

- 9 / 3 事務局会議
- 9 / 9 こどものくに「チューリップ版」編集会議
- 9 / 28 こどものくに「ひまわり版」編集会議
- 9 / 29 「ほとけの子」編集会議
- 9 / 30 こどものくに「たんぼ版」編集会議

## 暴風雨に直撃された関東・東北の皆さま、 謹んでお見舞い申し上げます

9月9日、愛知県に上陸した台風18号は日本海に抜けて間もなく温帯低気圧に変わり、折からの台風17号からの風が関東・東北にぶつかったことで、大雨を降らせる「線上降水帯」が発生。突如、関東から東北にかけて記録的な大雨が猛威を振るいました。

茨城県や宮城県では河川が氾濫し、1万棟以上の家屋が浸水しました。翌10日、気象庁は茨城・宮城両県に「特別警戒」を発令し避難をよびかけましたがすでに遅く、鬼怒川では川の水位が急上昇。堤防を越えた濁流は日光市など市街地に流れ込んできました。取り残された多くの人を警察や消防、自衛隊がヘリコプターで行う救助活動は、日本中が驚きと祈りを込めて見守っていました。日光市では、24時間に降った雨量は536ミリとなり、9月の平均の降水量の2倍以上が一日で降ったということです。中でも、今回の大雨で常総市が決壊場所に近い地域へ避難指示を出したのは決壊した後だったと分かり、市の対応に疑問の声も上がったようです。

普段より避難場所を確認しておくなど、大きな被害で改めて知らされた日頃からの備の大切さでした。被災地域の皆さまには茲に謹んでお見舞い申し上げます、一日も早い復興をこころから願っております。

## 編集後記

■過日、文部・厚労両省は平成28年度概算要求・要望を財務省に提出しました。文科省は経常費助成のうち一般補助(幼稚園分)は0.96%減の205億5千万円。園児一人当たりとしては前年度より256円アップの2万3491円となっています。総額の減少は、園児減少に伴うものように思われます。就園奨励費については今年も項目だけを盛り込む「事項要求」となっています。厚労省は、戦略的な重点要求・要望のポイントとして『すべての子どもが健やかに育つための総合的な対策』を打ち出しており、子どもを産みやすい環境づくりとして3247億円。待機児童に向けては934億円。児童虐待防止に1245億円を要求・要望をしています。年末から年初にかけて予算獲得で気が抜けなくなることでしょう■9月は大型台風が目白押しで日本列島を襲つてきました。土砂災害、河川の氾濫、家屋浸水など、枚挙にいとまがないほどでした。過去の教訓も活かされず亡くなられた方も多く、荒れ狂った風雨におののいた9月でした■「平和にあふれた一日は水と始まる」と言います。その幸せを感謝することを忘れないようにしたいと思います。(0・1)

公益社団法人 日本仏教保育協会  
〒105-0011東京都港区芝公園4-7-4  
ホームページ <http://www.buppo.com/>  
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519  
発行人 緑谷一雄 編集人 五島 満  
毎月1回1日発行(1部315円)



### 仏教保育綱領

- 慈心不殺 生命尊重の保育を行なおう
- 仏道成就 正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
- 正業精進 よき社会人をつくる保育を行なおう

## 紙芝居 おしやかさま 全4巻

○おたんじょう(12場面) ○四つの門(13場面) ○おさとり(16場面) ○ねはん(12場面)

セット定価 本体¥20,000(8%税込¥21,600) ※分売不可

脚本・絵/諸橋精光 画面38.2×26.5cm 豪華化粧箱入り

保育現場や布教活動の場で幅広くご利用いただけるよう、おしやかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子でも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。



ご注文  
お問い合わせ  
すずき出版